2021 年世界平和の森づくり報告書

2021 年度バリ島植林実施報告書



人が地球上で持続的に生き続けるためには「森」は必要不可欠 森を持続的に維持するには「共生と循環」社会づくりを!

NPO アジア植林友好協会

https://www.agfn.org info@agfn.org

2022年1月12日

私どもアジア植林友好協会の活動をいつもご支援いただきありがとうございます。インドネシア バリ州の水源環境林造成植林につきまして 2008 年以来の深いご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

2021 年度の植林を 2021 年 12 月 12 日から実施いたしましたので、以下ご報告させていただきます。このプロジェクトは、「世界平和の森づくり」と名付けております。

世界平和の森づくりは

インドネシア・バリ州で 2006 年事前調査をし、2007 年より植林を始めました。過去の火山爆発で被災し、多くの住民が、生活の場を失い、この地を追われて以来、159 年間、だれも手を付けることができませんでした。そのために、隣接する「バツール湖」の水位が 2 メートル余り低下してしまいました。この湖を源流として、下流域の地域の人々の生活用水としての役割が危ぶまれていました。

下) 植林前の現場 バツール山山麓 火山爆発被災地



この状況の中で水源を涵養する目的で植林を始めて 15 年、植えた木々育って、 豊かな森に変貌しつつあります。

世代や地域を超えて、地球環境を保全し住みよい地球を作り続けるために植林し、市民の生活基盤や、あらゆる生命の保護と繁栄に貢献します。そして、植えられた木々は、あなたに多くの幸運を自然循環サイクルの中で無限に与え続けてくれます。植林は平和社会の礎を持続的に守り続ける活動です。

わずか 13 年で、大きく変化した植林地



火山爆発被災地は皆様のご支援でここまで回復しています。2007 年から 202 1年まで14年間の間に延べ136,908 本の植林にご協力いただき、順次森が回復しております。写真は 2008 年に御社の植林を始めたエリアの眺望です。植林後 12 年目の状況です。現地の人たちも、もう「森」と呼べる状況だと評してくれています。自然の回復力のすばらしさを感じさせられています。

2021 年 9 月〜苗木の生産の写真→ 苗木は、山でプラゴミが出ないようにと 生分解の不織布のポットを日本から輸送し 使っています。この 2 か月後に山出しし、



現場にプラゴミを残さない植林を行っています。

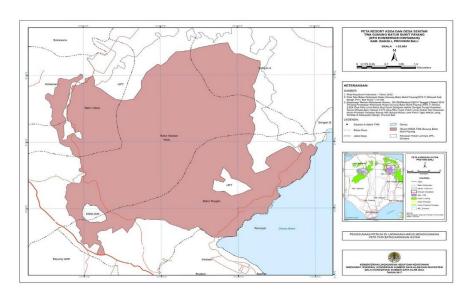
2021 年 12 月 12 日 植林祭を開催植林開始

コロナ禍の中なので、植林祭はコンパクトにして実行することで林業局の許可を取り、 2021年12月12日に実施いたしました。

参加者は100名に限定され、植林本数も1000本を実施いたしました。

今年度の植林寄付をいただいている総数は 6000 本で、残る 5000 本は、12 月 13~16 日に地元の 2 つのグループにより継続して実行し、完了しています。

植林を実行したエリアは Blok Tunggiran TWA Gunung Batur Bukit Payang. Blok 位置図



植林したアンププ支柱付き



副知事も参加・植林

植林活動の状況



火山礫に覆われた植林エリア





植林祭参加の代表メンバー



植林が大切なわけ~あなたの生活の未来の繁栄~

植林はCO2吸収源としての機能のみがクローズアップされていますが、数々の以下のような私たちの生活基盤を守ってくれています。

- ① 酸素の生成 ②土壌の浄化 ③騒音公害制御 ④雨水の流出制御
- ⑤ C O 2 を貯蔵 ⑥大気の浄化 ⑦気象の緩和 ⑧気温を制御 ⑨防風機能 ⑩土壌浸食防止 ⑪鳥獣の保護 ⑫風致保全と安らぎの提供 ⑬不動産の財産 価値を高める。など様々な生活基盤を維持し、循環しています。

SDGsの観点からは、

1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

SUSTAINABLE GOALS



- 2 気が貧困に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
 - ~現地では土地のない農民が入植して、持続的な農業を開始しています。~

- 13 気候変動とその影響に立ち向かうための緊急対策をとる。
- 15 陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森の持続 可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、な らびに生物多様性の損失の阻止を図る。

★21 世紀に生きる君たちへ: 司馬遼太郎氏の書籍より抜粋

「昔も今もまた未来においても変わらないことがある。

そこに空気と水、それと土などという自然があって、人間や他の動植物、さら に微生物にいたるまでが依存しつつ生きているということである。

自然こそ不変の価値である。

なぜならば、人間は空気を吸うことなくいきることができないし、水分を取る ことが無ければ、乾いて死んでしまう。

人間は生かされてきた。古代でも中世でも自然こそが神々であるとした。

自然をおそれその力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身をつつしんで

きた。し



※この言葉を次世代に伝え続けてゆくための植林活動です。

参考)昨年の植林したアンププの現在の状況について



枯草に埋もれてよくわかりませんが、生きています。





画像の通り枯れ木のようですが、枯れたような「幹」でも必ず雨を受けて、葉が茂り、育ちます。極度の乾燥には、すべての葉を落葉させて生き延び、復活し育ってくれます。そのために植林樹種としてアンププを選んでいる理由です。 以下の表は、年度別の植林本数と、推定の植生再生面積です。

植林後に枯死してしまうものや地形が平たんでなく均一ではないので、標準値の植林本数から、平均600本/翁として推定をしています。

年度別植林本数と推定植生再生面積の推移について

年度	植林本数(本)	再生「面積(㎡)
2007年	2,840	47,333
2008	8,240	137,333
2009	8,760	146,000
2010	11,030	183,833
2011	6,358	105,966
2012	10,536	175,516
2013	14,010	233,500
2014	10,176	169,600
2015	11,815	197,916
2016	11,483	191,383
2017	10,921	182,017
2018	9,232	153,866
2019	9,351	155,850
2020	5,966	99,333
2021	6,373	106,216
累計	136,908	2、285,600 m

再生面積とは、火山爆発により被災し、火山灰、火山礫に覆われた土地に植林をすることで、様々な植生が生まれて、多様性豊かな土地に回復している状態を指しています。現地の土地の地形状況により、植林できる本数は限定されますが、平均的な単位面積当たりの本数を 600 本/ 34と仮定して推定しています。1849 年に最初の火山爆発があり、この地域に住んでいた住民や生活していた土地が広い範囲で失われ、その後も 1968 年まで 7 回の火山爆発が起こりました。この間、自然の植生が失われ、隣接するバツール湖の水位が 2m 以上も低下し、下流域の生活用水が危機的な状況に陥り、何とか植生を戻したいとの地元政府の要望を受けて、爆発から 159 年後の 2007 年から取り組んでいます。

この地域の自然植生の回復と生活用水を供給する命の水ガメ=湖の水位が回復 してきており、地元の人々にも感謝されるプロジェクトになっており、多大な る貢献に感謝申し上げます。

特に JAC リクルートメント様には 2008 年以来、継続して支援していただき、 全体本数の 5 1 %を寄付していただいていますことご報告させていただきます。

最後に、世界平和の森づくりについて

私たち人間が、自然の恵みを無秩序に利用してきた結果、感染症の拡大など 自然からの反作用が人類の生活を脅かす形になっています。

私たちは、これまで地球の自然資源が無限であるような錯覚をして、日々の 経済活動や消費生活をして、資源の浪費をしてきました。

"自然資源は、無限ではなく有限なのです。"地球は無限大ではありません。

地球の自然が持続的に循環していて、いつも豊かでなければ、わたしたち人間 は生きてはいけないことは、明白です。

地球生命の永遠のために、「植林」は持続的な活動を維持することが大切です。

次世代に「生命」繋いでゆくことにこそ、意義と意味があります。私たちは自然に生かされていることに感謝し、その感謝の証として「地球の大地に木を植え次世代に引き継ぐ」活動に参加することが「平和な希望ある地球創り」につながります。

植林開始後は隣接するバツール湖の水位も回復してきており、、現地の住民 のみなさまに感謝されております。

しかし、再生できた面積は、対象地の十分の一です。次世代に安定した自然環境を引き継ぐために!皆様のご支援ご参加が必要です。

植えた木々は、自然力で力強く育って、自然を再生してくれます。

以上、ご報告まで